

トムの夢冒険記

敦賀市立中郷小学校

五年

にし
かわ
て
お
西川大朗



各務原市立那加第三小学校

六年

いま
お
な
な
み
い
ま
お
な
な
み
今尾なな実
さ
か
い
の
あ
坂井乃彩
お
く
む
ら
た
い
が
奥村大我
お
お
ば
やし
お
お
ば
やし
大林るりか
さ
こ
う
も
も
か
佐光桃夏

ある小さな町のすみっこに、とてもカラフルで面白い家がありました。その家には、男の子とその家族が住んでいました。

男の子の名前は、トム。近くの小学校の五年生です。

ある日の夕方、トムは公園でサッカーをしていました。もううす暗くなって来たので、みんな家に帰ることにしました。帰り道、ふと森の方を見てみると森のおくの方がキラキラと虹色に光っているのが見えました。でもトムは、(だれかが花火でもやっているのかなあ)というくらいにしか思いませんでした。

家に帰ったトムが、ゲーム機や食べなかつたおかしなどをかたづけしていると、サッカーボールがどこにもないのに気がつきました。

「しまった。サッカーボールを公園において来た」

トムは、サッカーボールがなくなってしまうといやなので取りに行くことにしました。

外はもうほんの少ししか明るくありません。お父さんが、

「いっしょに行つてあげようか」

と言つたけれど、トムはそれを断りました。

夜の道を公園に向かつて、トムは自転車をこぎました。公園に着いたトムはサッカーボールをさがし始めました。暗くてなかなか分からなかつたけれど、公園のすみっこに街灯に照らし出されたサッカーボールが転がっているのが見えました。トムはほっとして、サッカーボールを自転車のかごとおし入れて、家に向かつてこぎ始めました。

けれども、と中である森の中の光のことが気になって、少し近くに行つてみようと思ひ、トムは森の方に向かいました。でも、今は森におかしいところはありません。がっかりして帰ろうとすると、まるで森がそれを待っていたかのように、また虹色に光り始めました。トムは再び森に向かつて自転車をこぎ始めました。

森の入り口に着いたトムは、森の中をよく見てみました。人がいるようには

見えません。トムは自転車とボールを置いて森に入りました。

だいぶおくに進んだころ、鏡のような物が空中にういていました。トムはそれを手でさわってみました。

「うわっ」

そのとたん、鏡の中にすいこまれてしまったのです。

しばらくして、地面に放り出されたトムが最初に見た物は不思議な植物でした。さつきまでいた森の木とはまったくちがいで、南の国のヤシの木みたいな植物がたくさん生えています。

「ここはどこだろう」

立ち上がったトムは歩き始めました。すると反対側から、小さな生き物がトムの方に走ってきました。そして、トムのことをじっと見つめています。トムもその生き物をよく見てみると、体がウロコのような物でおおわれていて、口

には小さな牙が生えています。

「恐竜かな」

そんなことを言っていると、小さな生き物はにげて、代わりに大きな首長竜が、のっしのっしとこつちに歩いて来ました。トムはあわてて小高い丘に登りました。そして、森を上から見下ろしてみると、いろんな所にいろんな種類の恐竜がいました。

「ぼくは、恐竜がいた時代に、タイムスリップしたんだ」

その後、トムはたくさん恐竜を追いかけたり、さがしたりして遊びました。でも、そのうち大変なことに気がつきました。前の時代にもどる方法が分からなかったのです。たくさん遊んでいるうちに、どこから帰ればいいのか分からなくなってしまう、トムはもうパニックになりそうでした。虹色にかがやくあの不思議な鏡をさがして、トムは一日中歩き回りました。と中でがけから落ちそうにもなりました。それでもトムはあきらめませんでした。

結局、不思議な鏡は見つかりませんでした。トムはつかれ果てて、どうくつの中でねてしまいました。どうくつの中には恐ろしい恐竜がいることも知らずに……。★

トムがねていると、顔の上にねばねばしたくさい水が垂れてきました。

「うわっ」

トムは、びっくりして飛び起きました。顔についた水をはらって目を開けてみると、目の前に大きくて、でかい口を開けて待ちかまえている恐竜がいました。

トムは、この恐竜を知っていました。それは、本で見たことのあるティラノサウルスだったからです。

「うわあー」

トムは、急いで出口に向かって走りしました。

どうくつから出たトムは、あたりが明るいことに気がつきました。なんと、

その晩は、満月だったのです。

どうくつの中からは「ドシッ、ドシッ」とティラノサウルスが近づいてくる足音が聞こえました。

トムは、思いつきり走りました。息も切れて、ふらふらになり草につまづきたおれてしまいました。（これで終わりか）と思い、後ろをふり返ってみると、もう足音は聞こえません。ティラノサウルスが追いかけてこないことを知ったトムは、そのままつかれて、気を失ってしまいました。

どれくらい時間がたったのか、突然、ものすごい音がしました。びっくりしてとび起きると、目の前にティラノサウルスがせまってくるではありませんか。どうしたらいいのか考える間もなく、外に飛び出して、また走りました。

その足音は前よりもずっと、ずっと大きくなっています。ティラノサウルスは仲間を増やし、追いかけて来たように思いました。

トムは必死で走り続けて、気がついた時には、丘に登っていました。一番上

まで来て、後ろをふり返って見たら、ティラノサウルスはいませんでした。また、いつ現れるか分かりません。（早く鏡を見つけて、前の時代にもどらなくては）と思いながらも、あまりにも走り続けたので、つかれきって、体が動かなくなっていました。

体を休めて空を見上げました。月がきれいでした。よく見ると、まん丸の月の中にうさぎではなく、なんとゾウがもちをつけているではありませんか。

トムは、少しいやな予感がしました。起きあがって周りを見ると、そう、今度は、ティラノサウルスではなく、ゾウの大群がいたのです。

でも、もうトムには走る力が残っていません。どうしようかと迷っているうちに、ゾウは、すぐそこに！

トムは、決心しました。ゾウに優しく近寄り、仲良くなることにしました。

でも、ゾウには、そんな気は全くありません。トムに向かって走ってきそうです。トムは、だんだんこわくなってきました。でも、

「ぼくは決心したんだ。あきらめずに絶対にゾウと仲良くなってみせる!!」

トムはゾウに向かって走って行きました。走って来るトムにゾウはおどろきました。なにしろゾウは「追いかける」ことは知っていても「追いかけられる」ことは知らなかったからです。

ゾウはおどろき、遠くの方へ行ってしまうました。ゾウと友達になれなくて悲しいやら、にげきれてうれしいやらで、トムはその場にたおれてしまいました。

起きた時はもう朝でした。今まで、いろいろなことがあって気がつかなくなかったけれど、はらぺこなのに気がつきました。

何か食べ物はないか必死でさがしました。食べられそうな物があっても、バナナがピンク色、りんごが青……みんな不気味な色をしていて、とても食べる気がしませんでした。そのまま夜になってしまいました。

ふと、りんごやバナナの木を見て、おどろきました。月の光に当たって青い

りんごは赤に、ピンクのバナナは黄色に、おいしい色に変わっていたのです。トムは夢中で食べました。

その中に、いちだんと輝いている丸い物がありました。

「あつ、鏡だ！」

トムは無我夢中で鏡にかけ寄りました。トムの手が鏡にふれると、鏡から、カカーツと強い光がふきだしました。

そつとトムが目を開けると、そこは公園でした。

(あれは、何だったのだろうか……)

トムは不思議な気持ちでしたが、ドツキドキの冒険ができてよかったと思いました。